甲状腺外科草子 88

藤堂高虎の海城：今治

杉野圭三

豊臣秀吉の死後、加藤清正、福島正則、黒田長政らの武断派は石田三成と衝突し、徳川家康と接近した。藤堂高虎は穏健派で豊臣秀長時代から小堀遠州、以心崇伝（金地院崇伝）、脇坂安治ら近江土豪衆と親しく、交友関係が広かった。高虎は武断派との折り合いはあまり良くなかったとされているが、彼らと同じく東軍に参加した。多くの主君に仕えた高虎の人を観る目は鋭く、家康に仕えることを早い時期から決めていたものと考えられる。

慶長 5 年（1600 年）、家康による会津征伐に従軍。同年 9 月 15 日の関ヶ原戦では、大谷吉継、石田三成と戦ったとされる。高虎が戦場以上に功績を評価されたのは豊臣方の脇坂安治や小川祐忠、朽木元綱、赤座直保らへの交渉で内応を成功させたことである。

敗軍の将 石田三成に高虎は「貴殿からみた我が隊の問題点をご教授願いたいと」尋ねた。答えは「鉄砲隊を活かし切れていなかったようです、名のある指揮官を置けば威力が向上するでしょう」。その後、藤堂家の鉄砲頭は千石以上の家臣となったと伝わる。

今治城の堀、石垣、櫓

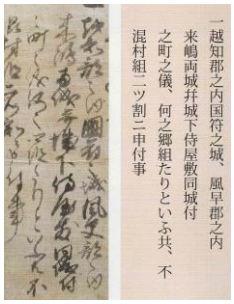
戦後、家康から新たに今治 12 万石が加増され、計 20 万石となった。

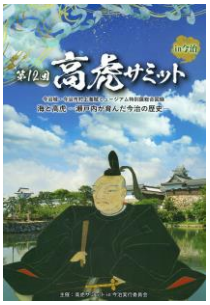
今治城は 1602 年に築城開始し、1613 年頃完成、堀、石垣、四隅の櫓を備え、守りの固そうな海城である。入口にある鉄（くろがね）御門は大きな石と鉄を張り合わせた頑丈な造りとなっている。その中の巨石は勘兵衛石と呼ばれ、城の築城奉行を務めた槍の勘兵衛（渡邊勘兵衛、1562－1640）に由来する。

鉄御門と勘兵衛石

今治領は加藤嘉明（賤ケ岳七本槍の一人、1563－1631）の伊予領地と隣接し両藩の仲は悪く紛争が頻発し、協定書も作成された。

加藤・藤堂伊予領地協定書（1600）





同上拡大（高虎サミット in 今治実行委員会より）

今治城天守閣と高虎の騎馬像

この城は宇和島城と同様に港と一体化した海城で瀬戸内の海上交通を制する要衝である。家康は毛利、島津など反徳川の西国大名を意識し、水軍指揮の才能があり信頼できる高虎をこの地に配置したものと考えられる。

今治城天守閣前には高虎の騎馬像（中村晋也作）が自信満々と立ち城下を見渡している。瀬戸内を制する海城の傑作である。

参考資料：第 12 回高虎サミット、Wikipedia、

（　一甲状腺外科医の徒然なる随想　）

2024 年 1 月 11 日